

平成29年度GAPの取組・認証農畜産物に対する
消費者の意識・意向調査結果

平成30年3月30日

農林水産省生産局農業環境対策課

目次

○ 調査概要	p. 2
○ 調査結果	
1 「生鮮食品を購入する」頻度及び「加工食品や調理食品を購入・外食する」頻度	p. 3
2 農畜産物の生産過程における持続可能な取組についての関心	p. 4
3 G A P（農業生産工程管理）の認知	
（1）G A Pの認知度	p. 5
（2）G A Pの認知経路	p. 5
4 農業者がG A Pに取り組む必要性	p. 6
5 国内農畜産物取引におけるG A P認証の要件化についての評価	
（1）国内農畜産物取引におけるG A P認証の要件化についての評価	p. 7
（2）評価する理由	p. 8
（3）評価しない理由	p. 9
6 G A P認証の店頭表示の是非	p. 10
7 G A P認証農畜産物の購入意向	p. 11
○ 調査票	p. 12

調査概要

本調査は、消費者のGAP及びGAP認証に対する意識・意向を把握するために実施した。

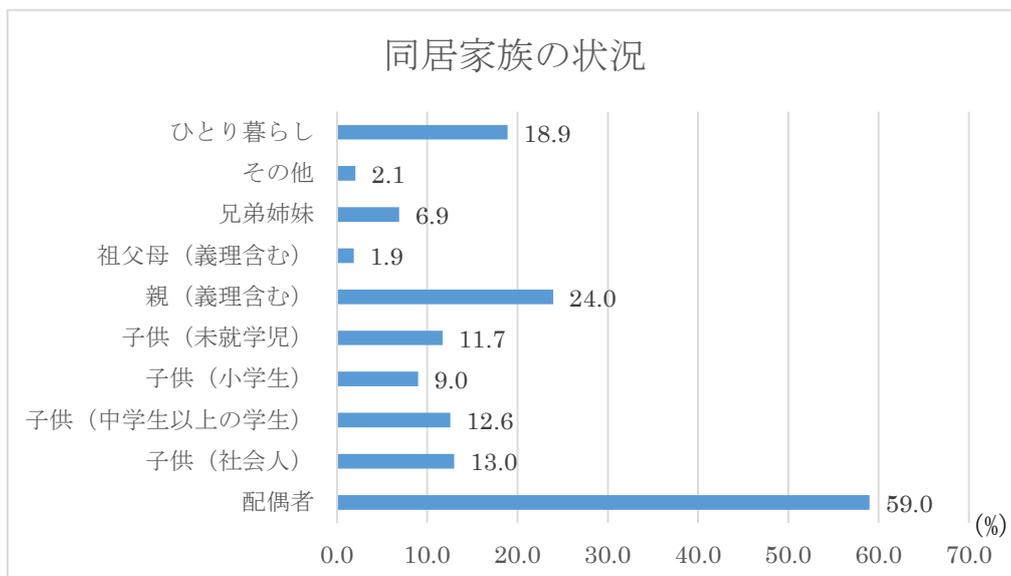
- ・調査対象：国内の20歳以上69歳以下の男女個人
- ・サンプル数：2,000サンプル（有効回答数）
- ・調査方法：インターネット調査（委託先：楽天株式会社）
- ・調査時期：平成30年2月8日から2月12日
- ・調査地域：全国

<回答者の性別・年代構成>

年代	男性 [n (%)]	女性 [n (%)]	計 [n (%)]
20代	159 (8.0)	152 (7.6)	311(15.6)
30代	193 (9.7)	187 (9.4)	380(19.1)
40代	238(11.9)	233(11.7)	471(23.6)
50代	191 (9.6)	190 (9.5)	381(19.1)
60代	224(11.2)	233(11.7)	457(20.7)
計	1,005(50.2)	995(49.8)	2,000(100.0)

※小数第2位四捨五入

<回答者の同居家族の状況>



調査結果

1 「生鮮食品を購入する」頻度及び「加工食品や調理食品を購入・外食する」頻度

Q：あなたの普段の生活において、「野菜や果物、精肉などの生鮮食品を購入する」頻度と、「加工食品や調理食品を購入または外食する」頻度ではどちらが高いですか。もっとも当てはまるものを選択してください。

「生鮮食品を購入する」頻度が高い」と回答した割合は49.8%と最も高く、「生鮮食品を購入する」頻度と、「加工食品や調理食品の購入または外食する」頻度が半々程度である」と回答した割合は24.9%、「加工食品や調理食品の購入または外食する」頻度が高い」と回答した割合は9.8%、「どちらでもない（自分ではほとんど食品を購入しない）」と回答した割合は15.6%となっている。

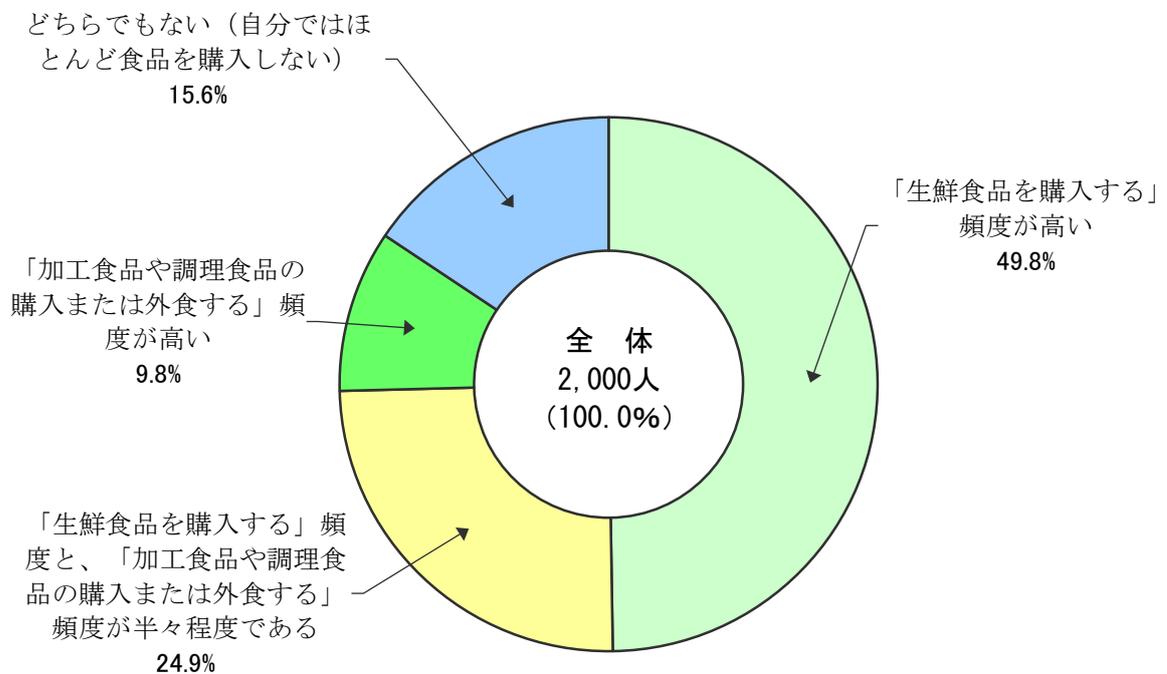


図1 「生鮮食品を購入する」頻度及び「加工食品や調理食品を購入・外食する」頻度

2 農畜産物の生産過程における持続可能な取組についての関心

Q：あなたが普段購入する生鮮食品や、加工食品や調理食品、外食の原材料となっている農産物・畜産物（以下、「農畜産物」といいます。）について、それらの生産過程において、どのような取組が行われていることが重要だと考えますか。次に挙げる各取組について、消費者の視点から、もっとも考え方が近いものを選択してください。

※ 農畜産物の生産過程における持続可能な取組（①食品安全、②環境保全、③労働安全、④人権保護、⑤農場経営管理、⑥アニマルウェルフェア）の具体例を挙げた上で、それらの取組が重要であるかどうかを「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」についての関心を5段階で質問。

いずれの取組に対しても、「そう思う（重要であると思う）」と回答した割合が5段階中で最も高く、40～60%となっている。

また、重要であると思う割合（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）は以下のとおりとなっている。

<重要であると思う割合（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）>

- ① 食品安全の確保に関する取組：82.6%
- ② 環境の保全への配慮に関する取組：80.4%
- ③ 労働者（農業従事者）の安全確保に関する取組：76.5%
- ④ 労働者（農業従事者）の人権保護に関する取組：76.3%
- ⑤ 自らの農場経営管理の取組：76.4%
- ⑥ アニマルウェルフェアの取組：77.0%

反対に、重要であると思わない割合（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）は、いずれの取組に対しても5%以下となっている。



全体：2,000人（100.0%）

図2 農畜産物の生産過程における持続可能な取組についての関心

3 GAP（農業生産工程管理）の認知

(1) GAPの認知度

Q：あなたはGAPについて知っていましたか。

「知らなかった」と回答した割合が72.7%と最も高く、次いで、「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」と回答した割合は22.0%、「知っていた」と回答した割合は5.4%となっている。「GAP」について認知している人の割合は合計27.4%となっている。

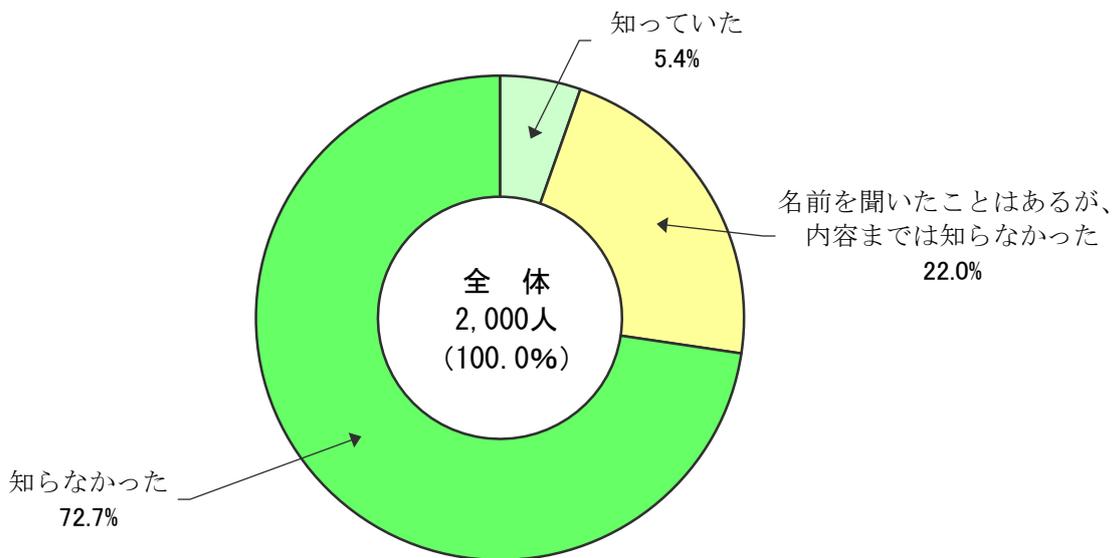


図3-1 GAP（農業生産工程管理）の認知度

(2) GAPの認知経路

Q：あなたはどのような機会を通じてGAPを知りましたか。（複数選択可）

GAPを認知している人（「知っていた」または「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」と回答した人）において、その認知経路をみると、「新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアの報道で知った」と回答した割合が61.2%で最も高い。これ以外の認知経路はいずれも20%以下となっている。

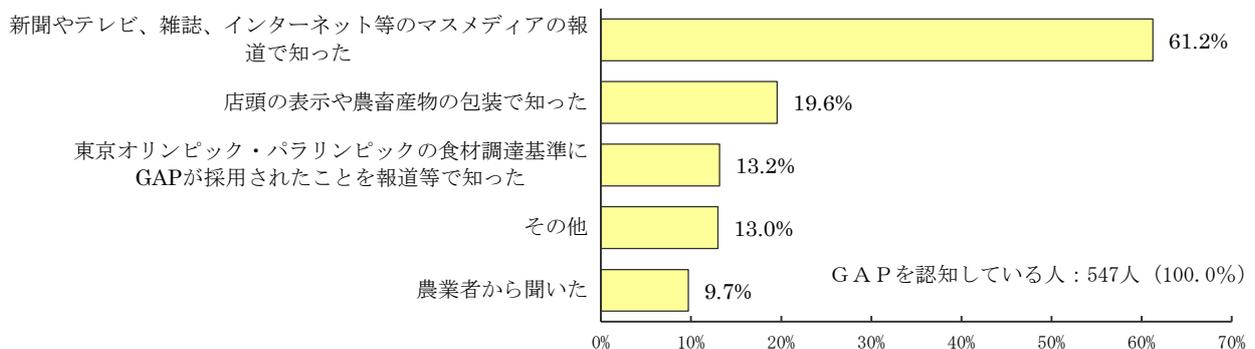


図3-2 GAPの認知経路

4 農業者がGAPに取り組む必要性

Q：農業者は、GAPに取り組む必要があると考えますか。

「取組が可能な農業者は取り組む必要がある」と回答した割合は62.5%、「すべての農業者が取り組む必要がある」と回答した割合は30.0%となっている。

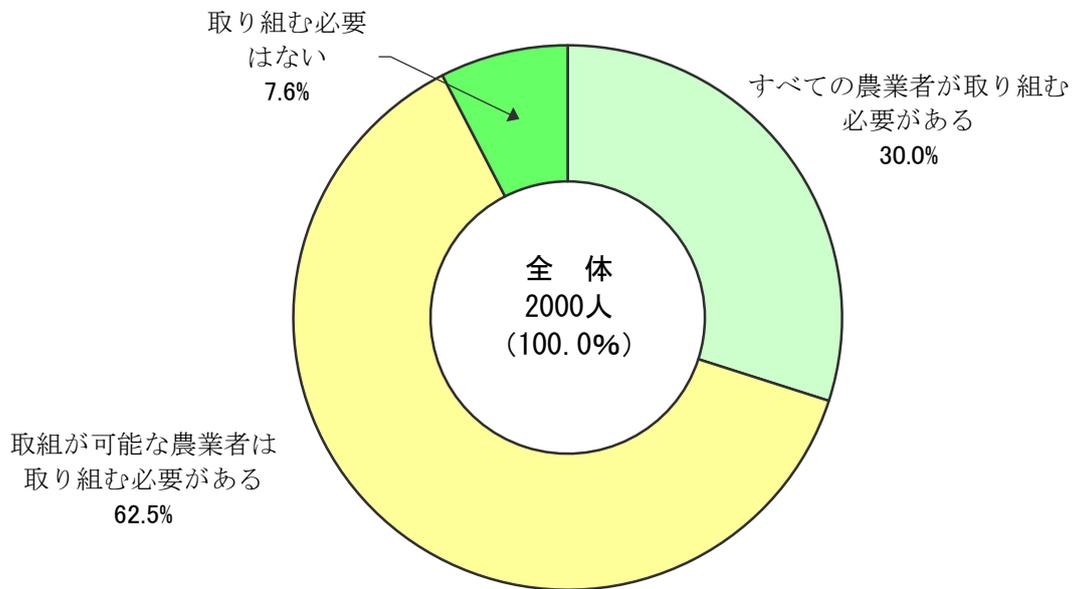


図4 農業者がGAPに取り組む必要性

5 国内農畜産物取引におけるGAP認証の要件化についての評価

(1) 国内農畜産物取引におけるGAP認証の要件化についての評価

Q：国内の食品関係企業（食品製造・卸売・小売・外食等）が、農畜産物の取引にあたって、GAP認証を取引の要件としたり、優先的に取引することについて、あなたは評価しますか。

「評価する」と回答した割合は56.4%、「わからない、どちらともいえない」と回答した割合は38.3%「評価しない」と回答した割合は5.4%となっている。

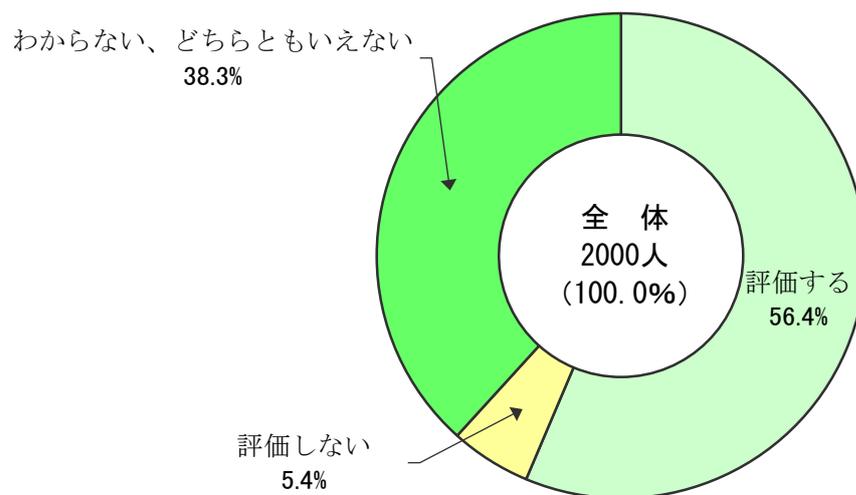


図5-1 国内農畜産物取引におけるGAP認証の要件化等についての評価

(2) 評価する理由

Q：評価すると答えた理由について、もっとも当てはまるものを教えてください。

(1) の設問で「評価する」と回答した理由をみると、「企業の社会的責任だと思うから」と回答した割合が 47.9%、「信頼できる企業だと思うから」と回答した割合が 45.8%となっている。

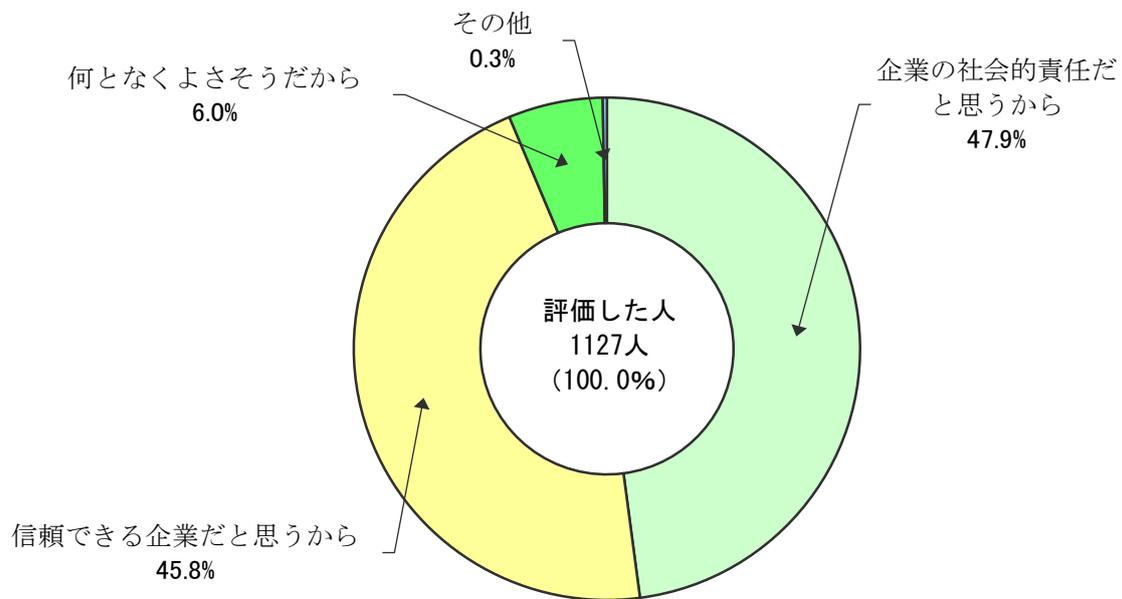


図 5-2 評価する理由

(3) 評価しない理由

Q: 評価しないと答えた理由について、もっとも当てはまるものを教えてください。

(1) の設問でGAP認証を「評価しない」と回答した理由をみると、「あまり必要性を感じないから」と回答した割合が 42.1%と最も高く、「認証の有無よりも価格や鮮度、味などを重視するから」と回答した割合は 38.3%、「認証がなくても安全・安心な農畜産物が手に入れられるから」と回答した割合は 13.1%となっている。

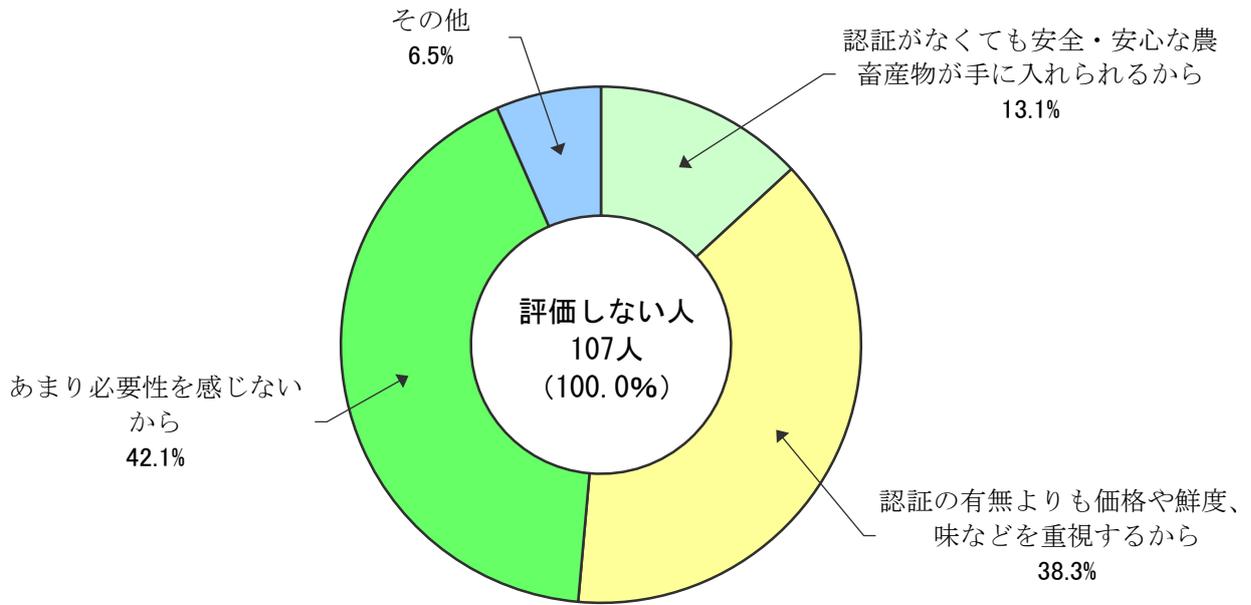


図 5-3 評価しない理由

6 GAP 認証の店頭表示の是非

Q：生産者がGAP認証を取得していることは、取引相手の食品関係企業に対して示すべきものという考え方があり、必ずしも消費者に積極的にPRされているわけではありません。GAP認証を取得していることが、消費者にも判るよう、スーパーマーケットなどの店頭で表示（パネルやシール等）されている方がよいと思いますか。

「そう思う」と回答した割合が60.3%と最も高く、「わからない、どちらともいえない」と回答した割合は33.6%、「そう思わない」と回答した割合は6.1%となっている。

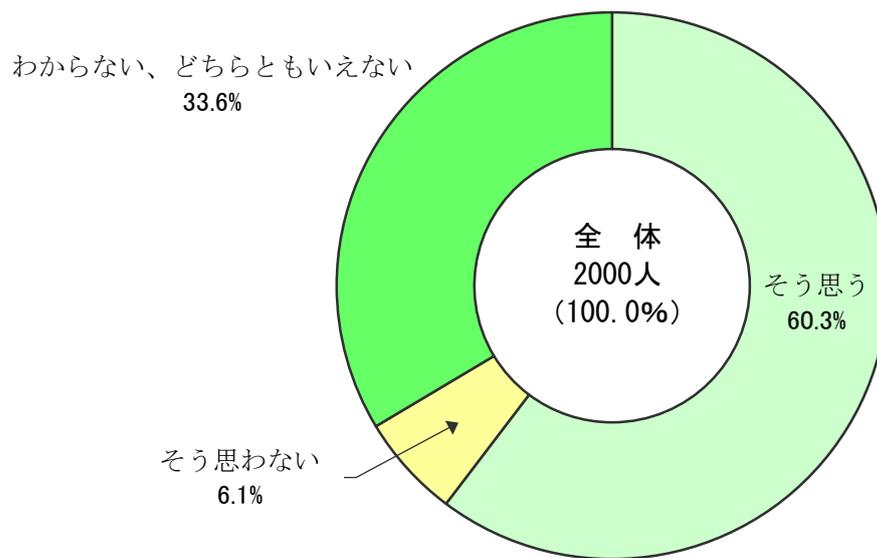


図6 GAP 認証の店頭表示の是非

7 GAP認証農畜産物の購入意向

Q：あなたは今後、GAP認証を受けた農産畜物を購入したいと思いますか。

「同程度の価格であれば購入したい」と回答した割合は71.8%、「割高になっても、購入したい」と回答した割合は18.5%となっており、合わせると約9割が購入意向を示している。

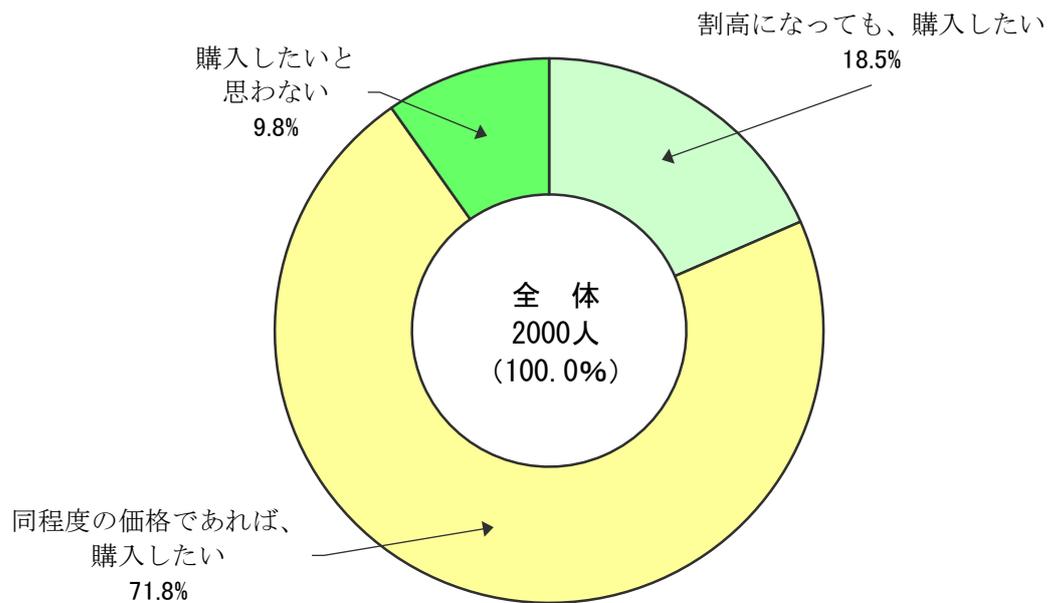


図7 GAP認証農畜産物の購入意向

調査票

Q1 あなたの家族構成（現在、同居している家族の構成）を教えてください。
必須（いくつでも）

- 1.配偶者
- 2.子供（社会人）
- 3.子供（中学生以上の学生）
- 4.子供（小学生）
- 5.子供（未就学児）
- 6.親（義理含む）
- 7.祖父母（義理含む）
- 8.兄弟姉妹
- 9.その他
- 10.ひとり暮らし(**排他**)

Q2 あなたの普段の生活において、「野菜や果物、精肉などの生鮮食品を購入する」頻度と、「加工食品や調理食品を購入または外食する」頻度ではどちらが高いですか。
必須 もっとも当てはまるものを選択してください。

- 1.「生鮮食品を購入する」頻度が高い
- 2.「生鮮食品を購入する」頻度と、「加工食品や調理食品の購入または外食する」頻度が半々程度である
- 3.「加工食品や調理食品の購入または外食する」頻度が高い
- 4.どちらでもない（自分ではほとんど食品を購入しない）

Q3
必須

あなたが普段購入する生鮮食品や、加工食品や調理食品、外食の原材料となっている農産物・畜産物（以下、「農畜産物」といいます。）について、それらの生産過程において、どのような取組が行われていることが重要だと考えますか。

次に挙げる各取組について、消費者の視点から、もっとも考え方が近いものを選択してください。

食品安全の確保に関する取組がされていることが重要である。

（取組の例）

- ・農薬の残留や汚染を防止するため、農薬の使用方法や保管方法が正しく守られていること。
- ・商品のパックなどに毛髪やプラスチック片などの異物が混入しないよう、適切な防止策が取られていること。
- ・生産現場の衛生環境が整備（例：手洗いや掃除の徹底など）されていること。
など

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

Q4
必須

あなたが普段購入する生鮮食品や、加工食品や調理食品、外食の原材料となっている農畜産物の生産過程において、環境の保全への配慮に関する取組がされていることが重要である。

（取組の例）

- ・水田や畑から肥料の成分が流出し、地下水や河川を汚染しないよう、肥料の削減などの工夫を行っていること。
- ・環境汚染を防止するため、使用済みの農業資材（例：肥料や農薬の容器、プラスチック製のシートなど）について、野焼きや放置、埋め立てなどをせず、廃棄物処理業者に委託するなど適切に処理していること。
- ・周辺の民家などの環境に配慮するため、騒音、振動、悪臭、虫害・煙・ほこり・有害物質の飛散や流出等の防止策が取られていること。
など

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

Q5
必須

あなたが普段購入する生鮮食品や、加工食品や調理食品、外食の原材料となっている農畜産物の生産過程において、労働者（農業従事者）の安全確保に関する取組がされていることが重要である。

（取組の例）

- ・農業機械を使用する場合の事故の発生を防止するため、草刈り機を使用する際にすね当てやフェイスガード等の防護具を着用していること。
- ・事故の発生に備えて労働災害保険へ加入していること。
など

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

Q6
必須

あなたが普段購入する生鮮食品や、加工食品や調理食品、外食の原材料となっている農畜産物の生産過程において、労働者（農業従事者）の人権保護に関する取組がされていることが重要である。

（取組の例）

- ・従業員の待遇改善のため、経営者と従業員との間で、労働条件、労働環境、労働安全等について定期的に意見交換を行い、内容を記録していること。
- ・従業員を人種、民族、国籍、宗教、性別等により差別しないこと。
- ・従業員に対して、長時間の労働を課したり、暴力をはたいたりしていないこと。
など

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

Q7 **必須** あなたが普段購入する生鮮食品や、加工食品や調理食品、外食の原材料となっている農畜産物の生産過程において、自らの農場経営管理の取組がされていることが重要である。

(取組の例)

- ・食品安全や環境保全、労働安全などの確保に必要なルールについて、従業員への教育訓練を実施していること。
 - ・継続的に農場経営を改善していくために、農場全体の食品安全や環境保全、労働安全などの取組状況を定期的に自己点検し、記録するとともに、不十分であった取組を見直していること。
- など

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

Q8 **必須** あなたが普段購入する生鮮食品や、加工食品や調理食品、外食の原材料となっている畜産物の生産過程において、アニマルウェルフェアの取組がされていることが重要である。

(取組の例)

- ・家畜の体が清潔に保たれるよう、使用する敷料（敷きワラなど）は十分な量を用い、清掃、消毒等を適切に行うこと。
 - ・家畜を移動させる際には、怪我のおそれがあるような手荒な扱いをせず、丁寧に扱うこと。
 - ・家畜の健康状態の悪化が速やかに把握できるよう、日々の観察を適切に行うとともに、怪我や病気の徴候が見られたら、速やかに獣医師の診療を受ける等の対応を行うこと。
- など

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理)とは、農畜産物の生産現場において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理等の持続可能性を確保するための生産工程を管理する取組です。

具体的には、農業者が、自らの生産活動におけるリスク等を踏まえたチェック項目にしたがって、必要な対策を講じその内容を記録・点検し、継続的に改善を進める取組です。

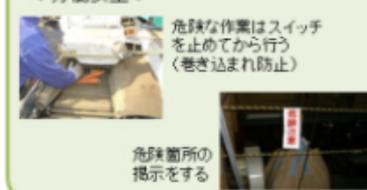
さらに、必要に応じて第三者機関の審査を受け「GAP 認証」を取得することで、これらの取組を行っていることについての客観的な証明を得ることができます。

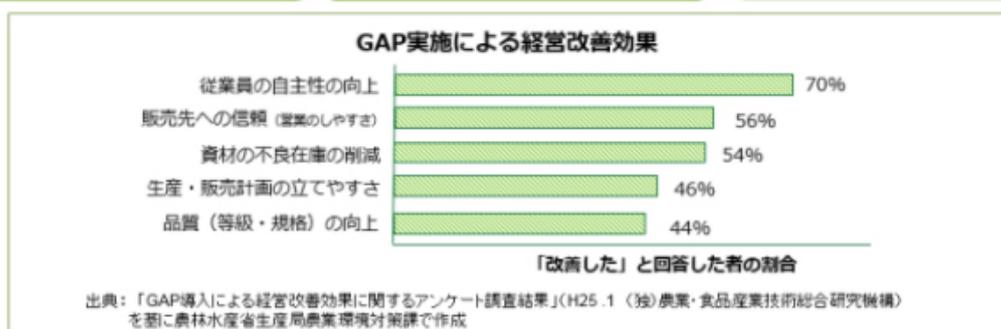
農業者や産地がGAPに取り組むことで、農業経営の改善や効率化が図られるとともに、流通事業者や消費者などからの信頼を得ることに繋がります。

また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、選手村等の施設で提供される食事の原材料(農畜産物)について、持続可能性の観点から、「GAPに取り組んでいること」が調達の実要件とされました。

※ [画像を拡大] をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

GAPの実施(例) → 農場内を点検し、課題や問題点を見つけ、改善。

<p>< 食品安全 ></p>  <p>包装資材のそばに灯油など汚染の原因となるものを置かない</p> <p>堆肥置き場や調製施設では、専用の履物を準備する</p>	<p>< 環境保全 ></p>  <p>廃棄物を農場に放置しない</p> <p>農業空容器は分別して処分</p>	<p>< 労働安全 ></p>  <p>危険な作業はスイッチを止めてから行う(巻き込まれ防止)</p> <p>危険箇所の掲示をする</p>
<p>< 人権保護 ></p> <p>家族経営協定の締結、技能実習生の適切な労働条件の確保</p>	<p>< 農場経営管理 ></p> <p>責任者の配置、教育訓練の実施、内部点検の実施</p>	<p>< その他 ></p> <p>商品回収テストの実施、資材仕入先の評価</p>



[画像を拡大]

Q9 必須 あなたはGAPについて知っていましたか。

- 1.知っていた
- 2.名前を聞いたことはあるが、内容までは知らなかった
- 3.知らなかった

質問表示条件

条件式

(Q9 or 1~2)

Q10 あなたはどのような機会を通じてGAPを知りましたか。
必須 (いくつでも)

- 1.新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアの報道で知った
- 2.店頭に表示や農畜産物の包装で知った
- 3.農業者から聞いた
- 4.東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準にGAPが採用されたことを報道等で知った
- 5.その他

Q11 農業者は、GAPに取り組む必要があると考えますか。
必須

- 1.すべての農業者が取り組む必要がある
- 2.取組が可能な農業者は取り組む必要がある
- 3.取り組む必要はない

GAPには、第三者である審査会社が審査を行い、生産者がGAPに正しく取り組んでいることを確認・証明する「GAP認証」という仕組みがあります。

<GAP認証の例>

- GLOBALG.A.P. (グローバルギャップ)
ドイツで生まれた認証制度で、欧州を中心に普及
- JGAP (ジェイギャップ)
日本発の認証制度で、主に国内で普及

生産者がGAP認証を取得するためには、審査費用などのコストが掛かります（年間10～50万円以上）。現在、これらのコストは、基本的には生産者が自ら負担しています。

欧州の一部のスーパーマーケットなどにおいて、食品安全のみならず、農業生産の持続可能性を確保する観点からも、農畜産物を仕入れる際に、生産者がGAP認証を取得していることを取引の要件としている例があります。

国内では、これらの認証はまだまだ普及が進んでいませんが、一部のスーパーマーケットなどにおいても、同じようにGAP認証の取得を取引の要件としたり、優先的に取引する事例が少しずつ見られ始めています。

Q12 国内の食品関係企業（食品製造・卸売・小売・外食等）が、農畜産物の取引にあたって、GAP認証を取引の要件としたり、優先的に取引することについて、あなたは評価しますか。

必須

- 1.評価する
- 2.評価しない
- 3.わからない、どちらともいえない

質問表示条件

条件式

(Q12 or 1)

Q13

必須

評価すると答えた理由について、もっとも当てはまるものを教えてください。

- 1.企業の社会的責任だと思うから
- 2.信頼できる企業だと思うから
- 3.何となくよさそうだから
- 4.その他： (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)

質問表示条件

条件式

(Q12 or 2)

Q14
必須

評価しないと答えた理由について、もっとも当てはまるものを教えてください。

- 1. 認証がなくても安全・安心な農畜産物が手に入れられるから
- 2. 認証の有無よりも価格や鮮度、味などを重視するから
- 3. あまり必要性を感じないから
- 4. その他: (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)

Q15
必須

生産者がGAP認証を取得していることは、取引相手の食品関係企業に対して示すべきものという考え方があり、必ずしも消費者に積極的にPRされているわけではありません。GAP認証を取得していることが、消費者にも判るよう、スーパーマーケットなどの店頭で表示(パネルやシール等)されている方がよいと思いますか。

- 1. そう思う
- 2. そう思わない
- 3. わからない、どちらともいえない

Q16
必須

あなたは今後、GAP認証を受けた農産畜物を購入したいと思いますか。

- 1. 割高になっても、購入したい
- 2. 同程度の価格であれば、購入したい
- 3. 購入したいと思わない